

●木津川希少種生育調査管理業務で除草作業と生育調査作業が年内に完了 画期的な成功

これまでは1月になっても刈り取りができない年が続いてきました。今年は作業の中で最も手のかかる集草作業に同志社大学サッカー部の皆さんに応援をお願いしますと声をかけると、貴重な植物の保存と美しい花を大切にすることを手伝いなら、と快く返答を頂きました。除草を担当してくれている森島さんや太田さんたちがすごくやる気を出して除草作業に取り掛かって、11月20日には管理地のすべての除草作業を完了させていただきました。すごいことが出来上がりました。また同時に生育調査を担当していただいている伊藤さんたちのグループも調査を完了させていただきました。今後の作業は国交省淀川河川事務所への報告書類作成だけになります。

●三川合流部でのアユの仔魚流下調査。今月の夜に三回実施

里山の会から太田さん杉本さんが3回とも参加されました。1時間に10分間だけ、橋の上からプランクトンネットを降ろしての調査ですが、こんなに多くの仔魚（天然アユの卵から孵化）が流下しています。例年は木津川が一番多いのですが、今年は桂川にNo.1をとられてしまったようです。



●尾根筋ハイキングコースのガイドブックが完成 年末清掃参加者に配布 12月10日に実施 9:30に普賢寺ふれあいの駅に集合

2005年にオープンして以来コースの見どころをガイドブックとして再編集いたしました。京田辺市の最高峰は甘南備山（211m）だと多くの方が思っておられるのではないのでしょうか。里山の会の皆さんもそうに考えておられました。

このハイキングコースを設定するた

めに国土地理院の資料を調べてみると京田辺市の最高峰は高船の鉾立山（311m）であることが分かりました。また、いわゆる京都大阪奈良の三国境もこのコースにあって、現地現場では2箇所の表示がされていること等がわかりました。そしてコース全体では三角点が三つ含まれていることも判明しました。ハイキングコースでこれらの物が揃っているところは珍しいと評判になりました。

京都府には5カ所の三国境がありますが、そのうちの 하나가京田辺市の三国境なのです。一度はコースを歩いてみてください。そのためにガイドブックを再編集しました。ご希望の方は里山の会事務所にお電話やメールでご連絡ください。活動協力金200円でお分けいたします。

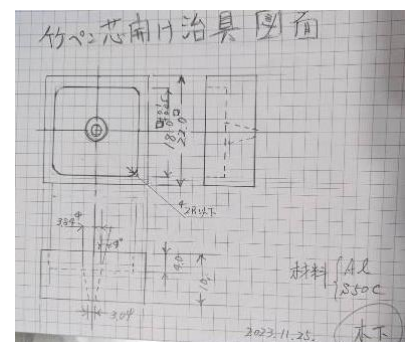
●竹サインペン製作道具の準備 残り一つの鉛筆の芯出し装置に到達 木下さん指曲がりの痛さをこらえて製図を完成

山村が脳梗塞で入院治療した3年前に病院で海ゴミ問題が話題になりました。ゴルフ場でプラスチックのサインペンに代わるものを考えなければならなくて、竹でのサインペンを作ろうと、退院後製作についての検討を重ねまして、ようやく手作りで竹嶋修二さんの手元で製作がすすみ、苦労して諸道具が揃いだし、現在鉛筆の芯を差し込む穴あけ固定道具のところまで前進してきました。アイデアはいいのだけれど製作は無理だろうといわれてきましたが、もう少しの工夫で作り上げられる道具が揃うのではないかと思います。この作品の広報

2023年度 淀川三川流下アユ仔魚調査

左は生存 ▲は死魚

測定日時		6時	7時	8時	9時	10時	合計	備考	里山参加者
11月11日	木津川	0	0	2	6	1	9	12人	太田、杉本、山村、金田
	宇治川	0	0	1 ▲2	2	0	3 ▲2		
	桂川	0	0	1	0	0	1		
11月18日	木津川	0	0	0	0	0	0	20人	太田、杉本、寺村(4人)
	宇治川						9		
	桂川	0	0	0	0	0	▲8		
11月25日	木津川	1 ▲4	9 ▲5	9 ▲3	15 ▲22	2 ▲2	26 ▲46	12人	太田、杉本
	宇治川								
	桂川								
		1	9	13	22	3	48		



宣伝（売り出し方）をどのようにするのが現在の悩み点です。皆様の知恵をお貸しください。まずは出来上がった製品をご覧になってみてください。お越しをお待ちしています。

●里山農園作業 11月28日に草刈りなどを実施 猪が例年以上に出没して困惑しています。

里山農園はイノシシやその他の動物たちによってこれまで大きな損害を受けてきました。その教訓から防護柵を張り巡らしてきましたが、効果なく侵入箇所らしき所の補強強化を行ってきました。また今年は網を取り外して草刈（柵の外を幅3m）を徹底するなどをおこないました。次の野菜の植付は玉ねぎで、昨年の1000本から300本に少なくして12月9日に植え付けることにしました。昨年は手入れも行き届かなかったところも反省して無理のない程度といたしました。農園での栽培にご関心を持っていただけましたら、ぜひ植付日に作業の応援にお越しください。今年は性根を入れて栽培したいと決意しています。

●蛍の夕べに出演してくれた沖縄三線バンド キジムーが田辺小学校の同窓会に出演きまる

2023年度での取り組みで沖縄三線バンドの演奏がホテルの集いと里山音楽会の夕べでは大変好評をいただき、まれにみる印象が残りました。この話が広がって、12月3日に行われる昭和26年度卒業の田辺小学校の皆さんの同窓会にぜひお聞かせいただきたいと要請がなされました。バンドチーフの木下さんは急遽メンバーの都合を合わせて出演すると回答をされました。私たち里山の会にはこうした小さな催しで、有田さんの腹話術や手品、金田さんの皿回し、森さん達の大正琴クラブ「はなみずき」が、皆さんにひと時のリクレーションとして大活躍をされています。それぞれの皆さんは要請頂いて練習の成果を発表できる場として嬉しいとおしゃっています。

●観察棟横のエノキ林でゴマダラチョウの幼虫が見つかる

今年は異常な暑さが続いた夏と夏日が続いた秋でした。11月でも夏日(25℃)がある高温でした。これまでエノキの落葉した所で越冬してきた幼虫はどうしているのだろうかと気になって、これまで度々覗きに行きましたが、11月26日に調べると2匹のゴマダラチョウの幼虫が越冬体制に入っているのが確認できました。一安心です。

12月16日に開催する昆虫観察会には桜谷先生が参加していただけることになりましたので、昨年発見できなかったオオムラサキの幼虫が発見できるといいですね。国蝶に指定されている蝶で、山城地域では里山農園でのみ確認されてきました。幼虫を見つけることができるということは、成虫が必ず生息していることになります。一昨年までは毎回幼虫が発見されてきていますが、昨年は見つかることができませんでした。今年は多くの皆さんの参加をお願いして、幼虫の発見ができることに期待をしています。

●第22回城陽市環境フォーラム11月25日に出展しました

城陽市から呼びかけをいただき出展参加をしました。出展ブースは9つほどのグループに分かれての展示で、里山の会のブロックでは河川レンジャーや生き物調査隊、エコポート長谷山さんの4団体でした。里山の会からは20回のイベント活動の呼びかけチラシと里山農園のガイド冊子など発行物を展示しました。副理事長の森島さん理事の有田さんが来場者の問いかけに丁寧に解説や説明をされ、「木津川はどんな川」などの本を買い求めていただきました。他の団体さんの熱心さが目を引きました。特にオオタカや鳩、スズメ、メジロなどのバードカービングの苦勞に感激を受けました。中でもオオタカは製作に2年から3年の力作だとおっしゃっていました。いずれも生きているものそっくりで見事でした。

